購読申込みは　〒108-0014
株式会社　水産タイムズ社
東京都港区芝5－9－6
電話　03(3456)1411
FAX　03(3456)1416
年間購読料30,360円(税別)

水産タイムズ
THE SUISAN TIMES

ホームページ　http://www.suisantimes.co.jp/
Eメール　suisan@suisantimes.co.jp

2020年（令和2年）
2月3日（月）
第4786号
毎週月曜日発行

ニッスイ

令和新時代

ひと

㈱Full Depth 代表取締役社長　伊藤　昌平氏

いとう・しょうへい　1987年生まれ、筑波大学第三学群工学システム学類卒。大学在籍時からベンチャー企業でロボットの試作開発に従事。2014年6月に独立し、同社の前身となる空間知能化研究所を設立した。

未知の世界への冒険心

東京都台東区）は水中ドローンを軸に水中の課題を解決する筑波大学発のスタートアップ企業。国内唯一の水中ドローンメーカーとして注目を集めている。

昨年発売した産業用水中ドローン「DiveUnit300」は機動力や耐久性、利便性を徹底的に追求。深海調査のほか、漁礁調査や定置網調査ロボット開発に着手した。

Full Depth（東京都台

・糞箱生簀の点検に使用可能で漁業者の安全性向上、省力化に貢献する。対象物（海魚）に再会したことがあるマルチナローピームソナーや自己位置推定に役立つUSBL音響測位装置もオプションで搭載可能。濁りなど悪条件下で使用できるよう配慮した。

伊藤氏は子どもの頃からロボットが好きで、工学系分野への進学を志す。水中趣味として開発を始めた。空間知能化研究所を立ち上げた後、事業計画を見直すために筑波大学の起業家向け講習を受講。本当にやりたいことを問われ、水中調査ロボット開発への事業転換を決意した。

「自分の好きなことを社会に役立つ形で提供したい。そのためには、大学在学時にテレビで幼少期に好きだった深海魚（ニチボシエソ）に再会したことが背中を押してくれた。社会に大きく貢献できると考えた」と当時を振り返る伊藤氏は今で世界への冒険心が再燃し、も「好きなことものの上手なれ」の信条を忘れない。

憧れの人物はコロンブス。新大陸を発見した偉大な探検家のように「浅瀬から深海、海水から淡水に至るまですべての水中を可視化することで人間が有効利用できる空間としたい」と意気込みを語る。

インドネシアに持続可能なカツオ漁業を

大日本水産会

インドネシアの漁業振興について熱心に質問する参加者

資源に優しい一本釣り伝える

インドネシアのジャカルタで「カツオの持続的利用」をテーマとしたワークショップ（大日本水産会主催）がこのほど開催された。水産資源の持続的利用を幅広い国々に広めるのが目的。昨年12月にジャカルタで開催したキンメダイのワークショップに続いての開催で、今回は宮崎県の伝統的なカツオ漁と資源管理の取り組み、地域に根差した力ツオ食文化などを伝えた。

外浦浩（宮崎県）の鈴木希望（のぞみ）さんは日本のかつお一本釣り漁業について「始まりは1600年代前半。一本釣りは資源にやさしいシンプルな漁法で、地域にあっては産加工、流通、造船などの関連産業と相互扶助の関係にある」と説明。

カツオ一本釣り漁業を持続可能な漁業とするために、①漁獲数量の上限を漁業者が自主的に設定②決められた月に各船が3回休漁③カツオ魚群を探して操業するため、混獲はほとんどない④1kg未満の魚群を極力避けている―などの資源管理のポイントを示した。また、日本の伝統的なカツオ一本釣り漁業を伝えることで「インドネシアの豊富な水産資源を守り、持続可能な漁業を実現してほしい」と望んだ。

一方、宮崎県水産政策課の渡部充さんは、カツオの業態（ささ、刺身、漬け、カツオ節、なまり節など）、地域に伝わる伝統的なカツオ食文化や「カツオ」をテーマにした観光フェアの開催など紹介し、宮崎県における取り組み、製品のさらなる付加価値化への取り組みを多方で検討したいと日本とインドネシアにおけるインウインの関係をめざす」とワークショップの目的を語った。

ワークショップにはインドネシアの漁業・水産加工関係者が出席。水産政策に強い国会議員や水産の学識経験者なども参加し、インドネシアのカツオ漁業や水産の資源管理などをめぐり活発な質疑応答も行われた。

FAO（国連食糧農業機関）水産・養殖局長を務め、現在はJICA水産政策アドバイザー（インドネシア事務所）の野村一良氏も出席した。

今週の紙面

シアトル・スリミ特集　2～5

米国アラスカ・ベーリング海でのスケソウダラ漁業Aシーズン（抱卵期）が1月20日、解禁となった。今期の米国スケソウスリミの供給と価格の行方に注目が集まっている。

介護食品特集　6～7

高齢者人口の増加に伴い、家庭用、業務用ともに市場が拡大している介護食品。「調理時間の短縮」や誰にでも用意可能な「簡便性」が求められている。

日水、スケソウすりみ強化　8

日本水産は春・夏新商品で、質の良いタンパク質として注目されるスケソウダラすりみを使った商品を「速筋タンパク」としてシリーズ化した。

バラコ製造会社を子会社化

マルハニチロ　社長に長谷川氏

林田前社長（右）と握手する伊藤社長

マルハニチロ（伊藤忠社長）は、バラコ製造販売会社の林田食品産業（佐賀県鳥栖市）を1月14日付で完全子会社化した。林田繁子社長は同日付で退任し、1月13日付でマルハニチロ北米ユニット北米事業一部の長谷川典生副部長が社長に就任した。

バラコの需要は用途の広がりから年々増加している。グループとしてバラコ製造販売会社の林田食品産業（佐賀県鳥栖市）の子会社化を決めた。林田食品産業のバラコ製品の生産量は年間約1000t。そのバラコの生産能力と販売能力を高めるためにバラコとのシナジーも今後期待している。一方、当社のスケコ事業の主体は今後ともトップサプライヤーとして原料供給であることに変わりはない。バラコの製造販売会社を持つことで、よりユーザー目線での原料販売を進めたい」としている。

ユーザー目線で原料販売進める

同社の舟木謙一執行役員北米ユニット長は「バラコの特性上、アラスカ系列のスケコとのシナジーも今後期待している。一方、当社のスケコ事業の主体は今後ともトップサプライヤーとして原料供給であることに変わりはない。バラコの製造販売会社を持つことで、よりユーザー目線での原料販売を進めたい」としている。

ワークショップの登壇者。右から4人目が大日本水産会の木上氏（1月22日、ジャカルタのホテルで）

五冷・五十嵐氏の社葬、しめやかに

1500人以上が別れを惜しんだ

故五十嵐康之・五十嵐冷蔵社長（東京冷蔵倉庫協会元会長）の社葬が1月31日12時30分から東京・芝公園の増上寺でしめやかに行われた。1月18日、肺炎のため死去した。87歳。

生前の活躍と交友関係の広さを物語るように、会社関係をはじめ、官公庁、出身の慶應大学OB、五冷グループなどから、前日の通夜を含め1500人以上が弔問に訪れた。

冷蔵倉庫業界、取引先メーカー、問屋、外食チェーンなどから多くの供花が寄せられ、特に通夜人場しきれない参列者が、外に設置したテントだけなく、付近の日比谷通りまで長い列を作った。

垣添直也（一社）マリンエコラベルジャパン協議会会長（日本冷蔵倉庫協会元会長、日本水産元社長）が参列者を代表して弔辞を読み、「冷蔵倉庫業界の中で先駆的なビジネスモデルを築いた人。物流が商流を制する時代が来ると言っていたが、その通りになった。私が日冷倉協会長を打診された際は『ちゃんと支えるから真剣に取り組め』と背中を押してくれた」と思い出を語った。

山手冷蔵の青山信之会長は「おごらず、ひたむき、信念をもった人。5期10年にわたり、東京冷蔵倉庫協会会長としてリーダーシップを発揮した。時代の変革期にあって、五十嵐さんを失ったことは冷蔵倉庫業界にとって大きな損失」と別れを惜しんだ。

最後に葬儀委員長の片岡齊副社長、喪主の五十嵐隆晴氏（故人の甥）が謝辞を述べた。

双眼鏡

五十嵐冷蔵五十嵐康之社長の訃報を聞き、また、斯界の伝説的な人物が去ったかと寂寥感を覚えた。享年87歳。いつも元気でお会いする度に、業界の課題について文字通り口角泡を飛ばして語るのが常だった。

業界の現役最長として目置かれる存在であり、仕事を愛すること人後に落ちない人だった。

筆者が70歳代になって、「私もボチボチ引き際をと考えないと」と告げたら、「飛べて現役だよ」と言われ、ただただびっくりさせられた。

「冷蔵倉庫座談会」には平成7年の第一回に東冷倉会長として出席し、都内の用地確保の必要性を強調、都への要望、保管料・荷役料の適正化などについて問題提起し、強い口調で論陣を張ったことが脳裏によみがえる。

長年の業界への貢献が認められ平成17年に旭日双光章を受章された。冷蔵倉庫業を愛し、業界発展に全身全霊で奉仕した故人の冥福を祈りたい。

長に就任、爾来36年余にわたって陣頭指揮を執り、「おごらず、ひたむき、信念をもった人。5期10年にわたり、東京冷蔵倉庫協会会長としてリーダーシップを発揮した。時代の変革期にあって、五十嵐さんを失ったことは冷蔵倉庫業界にとって大きな損失」と別れを惜しんだ。

最後に葬儀委員長の片岡齊副社長、喪主の五十嵐隆晴氏（故人の甥）が謝辞を述べた。

「信頼と誠実」
守谷エレベータ
守谷輸送機工業株式会社
http://www.moriya-elevator.co.jp
☎045(785)3111(代)

海員組合が労働問題協議会を開催

全日本海員組合は水産庁で漁業労働問題協議会を1月24日開催した。同庁に対して、①精度の高い資源調査の実施②漁獲量の拡大③複数魚種の操業を可能とする漁船建造―などを要請。資源・漁船・漁船員の適切な確保の重要性を訴えた。

また、現場代表者からは商業捕鯨における捕獲頭数・鯨種・操業海域の拡大▽捕鯨対策▽漁船業組員の後継者確保・育成▽外国人漁船員の権利擁護と福利厚生対策などを▽水産物輸入規制強化と輸出促進▽生産者魚価の確立と漁業用燃料価格対策▽

里海保全シンポ、8日都内で

内水面漁業協同組合連合会（JFE）全漁連と国土交通省は「里海保全の最前線」を東京都文京区の東京大学大学院工（安田講堂）で2月8日開催する。全国の先進的かつ効率的な取組を行うグループが活動実績や課題を報告する。

はシンポジウム

国内初の「ASC認証」

日水、ベトナムでエビ養殖

日水、ベトナムでエビ養殖

日水、ベトナムでエビ養殖

アラスカシーフードは天然。そしてサステイナブル。

アラスカ湾およびベーリング・アリューシャン海域のスケソウ漁業はアラスカの責任あるの漁業管理（RFM）プログラムの認証漁業です。
CoC認証を取得していただくことにより、製品が持続可能なアラスカ産の水産物であることを示すエコラベルの使用が可能となります。
詳しくはアラスカシーフードマーケティング協会までお問合せください。

持続可能な認証水産物 ASC MSC

ALASKA SEAFOOD
天然のおいしさを、アラスカから。
サステイナブルシーフード

アラスカシーフードマーケティング協会(ASMI)　〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町11番16号　インターナショナル・プレイス3F　TEL.03-3225-0089　FAX.03-5363-1118　E-mail asmijapan@aviareps.com　URL http://japanese.alaskaseafood.org/